

# 平成 29 年度ライフデザインアンケート 結果報告書

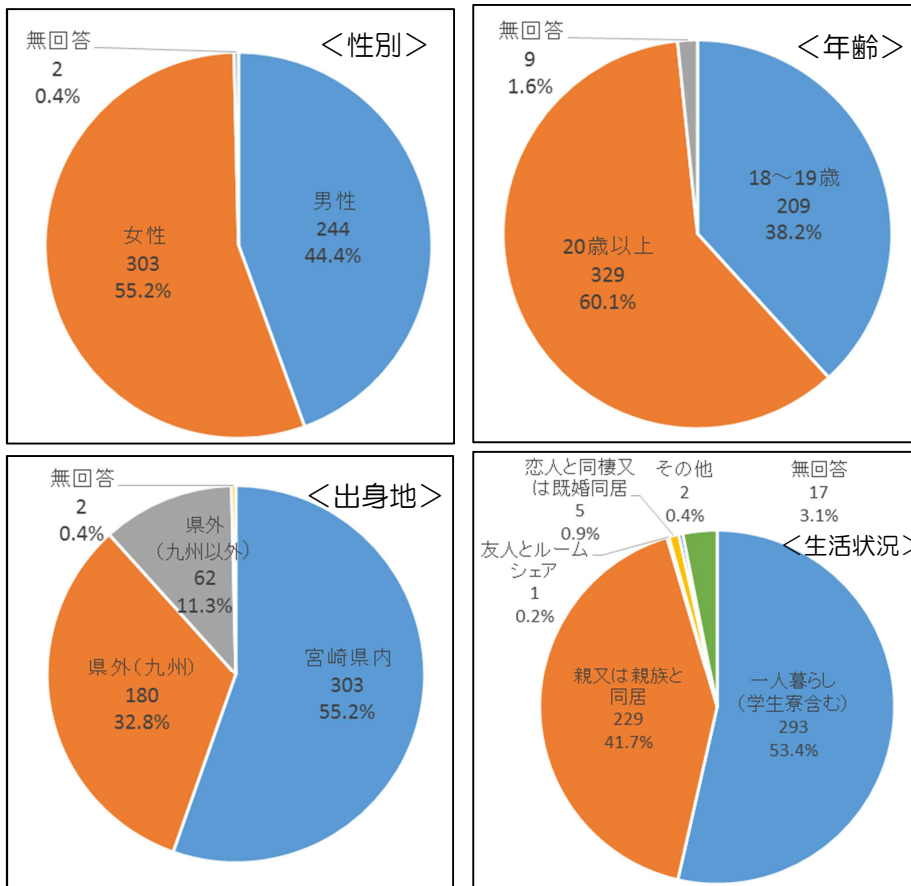
## ■アンケートの概要

- 1 目的：県内の大学生・短大生が、結婚や子育てについてどのような考えを持っているかを把握する。
- 2 実施主体：宮崎県子ども政策課
- 3 実施機関：宮崎大学清花アテナ男女共同参画推進室
- 4 実施時期：平成 29 年 10 月～11 月
- 5 対象者：宮崎県内の大学・短期大学・高専（6の協力機関）に在籍する学生
- 6 協力機関：宮崎大学、宮崎県立看護大学、宮崎公立大学、宮崎産業経営大学、九州保健福祉大学、宮崎国際大学、宮崎学園短期大学、南九州大学、南九州短期大学、都城工業高等専門学校、計 10 機関
- 7 配布数：1,026 通（各大学等の在籍者数に応じて配布）
- 8 回収数：549 通（回収率 53.5%）
- 9 前回調査との比較  
設問の一部に、平成 20 年度に実施した「結婚・子育て意識調査」と同じものを使用し、9 年前との比較を試みている。なお、前回調査は宮崎大学及び宮崎公立大学の学生 500 名を対象としたもので、回収数 451 通（回収率 90.2%）となっている。
- 10 留意点  
この調査は、結婚、妊娠・出産、子育てにやさしい社会づくりの気運醸成と切れ目のない支援を目的とした内閣府の地域少子化対策重点推進交付金を活用したものである。  
この調査により、結婚前の若者の意識の実態を把握するとともに、調査を通じて結婚・子育てを具体的にイメージしてもらうことも意図している。  
なお、結果の利用や解釈に当たっては、価値観の押しつけや少数意見の否定につながらないことに留意する必要がある。男女間の比較についても、詳細分析を行うためであり、男女の性別差を強調する意図はない。

## ■目次

【回答者の属性】	1
【1 交際経験と交際への意欲】	
問 1 あなたの交際の状況はどれに当てはまりますか。	2
問 2 今、恋人がいたらいいと思いますか。	2
問 3 恋人はいらないと答えた理由はどれですか。	3
【2 結婚・育児への意欲】	
問 6 将来結婚したいと思いますか。	4
問 7 何歳くらいまでに結婚したいと思いますか。	4
問 12 将来子どもを持ちたいと思いますか。	5
問 13 何歳くらいまでに第1子を持ちたいと思いますか。	6
問 14 子どもは何人持ちたいですか。	8
問 17 生殖機能が衰えはじめる年齢はどのくらいだと思いますか。	8
問 9 結婚したいと思わない理由は何ですか。	9
問 15 子どもを持ちたいと思わない理由は何ですか。	9
【3 交際、結婚、子育てへのイメージ】	
問 4 「交際」について、どのようなイメージを持ちますか？	10
問 10 「結婚」に対して、どのようなイメージを持ちますか？	10
問 16 「子育て」に対して、どのようなイメージを持ちますか？	11
【4 結婚に対する価値観】	
問 5 結婚に関する6つの価値観について、どのように感じますか。	12
【5 働き方、家事育児に関する男女の意識差】	
問 11 夫婦間での家事や育児の負担についてどれが望ましいと思いますか。	16
問 16 「子育て」に対して、どのようなイメージを持ちますか？（再掲）	16
問 19 自身の生き方・働き方として、どれが一番望ましいと思いますか。	17
問 8 結婚相手に何を望みますか。	17
【6 これからの生き方・暮らし方】	
問 18 卒業後の人生設計について、どの程度考えていますか。	18
問 20 学校を卒業したあと、どこで暮らす予定ですか。	18
問 21 暮らす場所を決める上で重要となる要素はどれですか。	19
【7 超高齢社会への不安、結婚・子育ての自由意見】	
問 22 「2025年問題」について聞いたことがありますか。	20
問 23 2025年の社会を想像して、不安に思うことはありますか。	20
問 24 2025年の社会を想像し、具体的にはどのような不安がありますか。	21
問 25 結婚、子育て、少子化についての考えなどを教えてください。	21
【まとめ】	22

## ■回答者の属性



(年齢、出身地、生活状況については、性別無回答の2人を除く547人が総数)

性別・年齢別	18～19歳	20歳以上	無回答
男性 (人)	86	155	3
男性 (%)	35.2	63.5	1.2
女性 (人)	123	174	6
女性 (%)	40.6	57.4	2

性別・出身地別	宮崎県内	県外(九州)	県外(東日本)	県外(西日本)	無回答
男性 (人)	118	96	10	20	0
男性 (%)	48.4	39.3	4.1	8.2	0
女性 (人)	185	84	10	22	2
女性 (%)	61.1	27.7	3.3	7.3	0.7

性別・生活別	一人暮らし	親等と同居	ルームシェア	同棲又は既婚	その他	無回答
男性 (人)	151	80	0	4	1	8
男性 (%)	61.9	32.8	0	1.6	0.4	3.3
女性 (人)	142	149	1	1	1	9
女性 (%)	46.9	49.2	0.3	0.3	0.3	3.0

### 【1 交際経験と交際への意欲】

回答者全体の約7割が恋人との交際経験を持っている。現在、交際相手がいない人も交際に対して意欲を持つ人が多く、男女別でもほとんど差は見られない。また、交際を望まない理由は多岐にわたっている。

#### 関連する設問の結果

問1 次のうち、あなたの交際の状況はどれに当てはまりますか。(〇は1つ)

	実数(人)	割合(%)	
現在交際している恋人がいる	177	32.2	72.3
これまでに恋人として交際した相手はいるが、現在はいない	220	40.1	
これまでに恋人として交際した相手はいない	130	23.7	
すでに結婚している	2	0.4	
無回答	20	3.6	
合計	549		

この設問では、「これまでに恋人として交際した相手はいるが、現在はいない」という回答が最も多く、全体の40.1%を占めている。次いで「現在交際している恋人がいる」という回答も32.2%で、回答者のうち約7割程度が交際の経験があることがわかる。

男女別で見ると、現在交際中の方も含めこれまでに交際した経験のある人は男性が68.9%に対し、女性が75.2%と女性の方が6.3ポイント高くなっている。

問2 問1で「2. これまでに恋人として交際した相手はいるが、現在はいない」「3. これまでに恋人として交際した相手はいない」と答えられた方におたずねします。あなたは今、恋人がいたらいいと思いますか。(〇は1つ)

	実数(人)	割合(%)
はい	239	68.3
いいえ	111	31.7
合計	350	

この設問では、「はい」が68.3%、「いいえ」が31.7%で、恋人がいたらいいと考える人の割合が多くなっている。

男女別で見ると、男女とも68%台で、ほとんど差はない。

問3 問2で「2. いいえ」と答えた方におたずねします。あなたがそのように考える理由はどれですか。(〇はいくつでも)

	実数(人)	割合(%)
自分一人で過ごす時間を大切にしたい	60	54.1
周囲に気になる人がいない	54	48.6
友人と過ごす時間を大切にしたい	37	33.3
出会う機会がない	36	32.4
学業に力を入れたい	35	31.5
趣味やサークル等に力を入れたい	27	24.3
自分に魅力がない	26	23.4
恋愛に興味がない	23	20.7
他人と恋人として交際することに不安がある	17	15.3
恋愛交際の進め方がわからない	12	10.8
過去に恋愛で失敗したことがある	7	6.3
その他	8	7.2
「いいえ」と回答した人の総数	111	

「恋人がいたらいいか」という質問に対して、「いいえ」と答えた人にそう思う理由を尋ねたところ、「自分一人で過ごす時間を大切にしたい」(54.1%)、「友人と過ごす時間を大切にしたい」(33.3%)などを選ぶ人が多い一方、「周囲に気になる人がいない」(48.6%)、「出会う機会がない」(32.4%)などを選ぶ人も多く、その理由は比較的多岐にわたっているといえる。

性別	一人の時間を大切にしたい	周囲に気になる人がいない	友人との時間を大切にしたい	出会う機会がない	学業に力を入れたい
実数(人)	60	54	37	36	35
全体(%)	54.1	48.6	33.3	32.4	31.5
男性(%)	58.0	36.0	22.0	28.0	36.0
女性(%)	50.0	60.0	43.3	36.7	28.3

また、上記の理由のうち上位5つについて男女別で見たところ、「周囲に気になる人がいない」や「友人との時間を大切にしたい」について、女性の方が男性より選んだ割合が多かった。

【2 結婚・育児への意欲】

「結婚すること」や「子どもを持つこと」に対して前向きな人の割合は非常に高い。また、平成20年度の調査に比べ、「結婚」を希望する年齢は24～29歳の年齢帯で分散し、「子どもを持ちたいと思う年齢」は早くなっている。男女別でみると、男性より女性の方が若い年齢で結婚・出産を希望している。

関連する設問の結果

問6 あなたは将来結婚したいと思いますか。(〇は1つ)

	実数(人)	割合(%)	
ぜひ結婚したいと思う	302	55.0	89.4
できたら結婚したいと思う	189	34.4	
あまり結婚したいと思わない	42	7.7	8.8
結婚したいとは全く思わない	6	1.1	
無回答	10	1.8	
合計	549		

今後の結婚に対する意欲をたずねたところ、「ぜひ結婚したいと思う」という回答が55.0%で最も高い割合を占めた。さらに、「できたら結婚したいと思う」(34.4%)を加え、全体の約9割が結婚することに対して前向きな気持ちを持っていることがわかる。

男女別で見ると男性88.5%、女性90.1%で、ほとんど差はない。

なお、単純比較はできないが、平成20年度の調査では、「いずれ結婚するつもり」、「結婚するつもりはない」の2択について、前者を選んだ割合が94.4%となっている。

問7 問6で「1. ぜひ結婚したいと思う」「2. できたら結婚したいと思う」と答えた方におたずねします。あなたは何歳くらいまでに結婚したいと思いますか。(〇は1つ)

	H29 割合(%)		H20 割合(%)	
20～21歳	0.2	3.1	0.0	2.1
22～23歳	2.9		2.1	
24～25歳	25.5	76.0	15.9	71.2
26～27歳	26.1		34.4	
28～29歳	24.4		20.9	
30～31歳	9.8	16.2	9.5	17.1
32～33歳	3.5		4.0	
34～35歳	2.9		3.6	
36～37歳	0.0	0.4	0.0	0.0
38～39歳	0.4		0.0	
40歳以降	0.0		0.0	
年齢にはこだわらない	3.7		6.9	
わからない	0.8		2.6	

結婚を希望する人が具体的にどのくらいの年齢で結婚したいかをたずねたところ、「26～27歳」(26.1%)、「24～25歳」(25.5%)、「28～29歳」(24.4%)が特に高い割合を占めており、24～29歳で76.0%と、結婚を希望する人の多くが20歳代後半に結婚したいと考えていることがわかる。

性別で見ると、24～29歳では男性71.8%、女性79.1%と女性が7.3ポイント高く、逆に30～35歳では男性18.5%、女性14.3%と男性が4.2ポイント高い結果となり、女性の方が若い年齢で結婚を望む割合が高い結果となっている。

なお、平成20年度に実施した前回調査では、今回調査と同じく24～29歳で71.2%と大半を占めているものの、前回は「26～27歳」の割合が34.4%とこの年齢帯に集中しており、前回と比べ結婚を希望する年齢が分散している。

問12 あなたは将来子どもを持ちたいと思いますか。(○は1つ)

	実数(人)	割合(%)	
ぜひ持ちたいと思う	305	55.6	89.5
持てたらいいと思う	186	33.9	
あまり持ちたいとは思わない	39	7.1	9.1
持ちたいとは全く思わない	11	2.0	
すでに子どもがいる	1	0.2	
無回答	7	1.3	
合計	549		

子どもを持つことに対する意欲をたずねたところ、「ぜひ持ちたいと思う」という回答が55.6%で最も高い割合を占めた。さらに、「持てたらいいと思う」(33.9%)を加え、全体の約9割が子どもを持つことに対して前向きな気持ちを持っていることがわかる。

性別で見ると男性91.4%、女性87.8%で、結婚に対して前向きな人の割合は女性の方が若干高かったのに対し、この設問では女性の方が若干低い状況となっている。

なお、単純比較はできないが、平成20年度の調査では、「子どもは何人欲しいか」という問いに「いない」と答えた人は4.9%となっている。

問 13 問 12 で子どもを「1. ぜひ持ちたいと思う」「2. 持てたらいいと思う」と答えた方におたずねします。あなたは何歳くらいまでに第 1 子を持ちたいと思いますか。  
(○は 1 つ)

	H29 割合(%)		H20 割合(%)	
20～21 歳	0.2	0.6	0.2	0.9
22～23 歳	0.4		0.7	
24～25 歳	13.3	64.4	5.1	50.4
26～27 歳	22.5		19.4	
28～29 歳	28.6		25.9	
30～31 歳	18.4	30.4	20.3	37.0
32～33 歳	6.3		8.7	
34～35 歳	5.7		8.0	
36～37 歳	0.6	1.6	0.2	0.4
38～39 歳	1.0		0.2	
40 歳以降	0.0		0.0	
年齢にはこだわらない	2.0		5.1	
わからない	0.8		2.0	

子どもを持つことを希望する人に対して、具体的にどのくらいの年齢で子どもを持ちたいかをたずねたところ、「28～29 歳」(28.6%)、「26～27 歳」(22.5%) が特に高い割合を占めており、全体の約 65% の人が 20 歳後半で子どもを持ちたいと思っていることがわかる。

なお、平成 20 年度の調査でも、今回調査と同じく「28～29 歳」との回答が 25.9% で最も高い割合を占めている。しかし、今回調査に比べると「24～25 歳」(5.1%)、「26～27 歳」(19.4%) などは今回調査より低い割合となっていることから、子どもを持つことを希望する年齢が早くなっていることがわかる。

男女別で見ると、24～29 歳では男性 57.8%、女性 68.9% と女性が 11.1 ポイント高く、逆に 30～35 歳では男性 37.9%、女性 24.6% と男性が 13.3 ポイント高い結果となり、女性の方が若い年齢で子どもを持つことを望む割合が高い結果となっている。



(参考：「結婚したい年齢」と「子どもを持ちたい年齢」の男女比較)

	結婚したい年齢		子どもを持ちたい年齢	
	男(%)	女(%)	男(%)	女(%)
20～21 歳	0.5	0.0	0.5	0.0
22～23 歳	3.2	2.6	0.5	0.4
24～25 歳	22.2	28.2	10.6	15.4
26～27 歳	24.1	27.1	21.3	23.1
28～29 歳	25.5	23.8	25.9	30.4
30～31 歳	12.5	7.7	19.9	17.2
32～33 歳	2.8	4.0	8.3	4.8
34～35 歳	3.2	2.6	9.7	2.6
36～37 歳	0	0.0	0.5	0.7
38～39 歳	0.9	0.0	1.4	0.7
40 歳以降	0	0.0	0	0.0
年齢にはこだわらない	4.6	2.9	3.2	1.1
わからない	0.5	1.1	1.4	0.4

問 14 問 12 で子どもを「1. ぜひ持ちたいと思う」「2. 持てたらいいと思う」「5. すでに子どもがいる」と答えた方におたずねします。子どもを何人持ちたいですか。(〇は1つ)

	全体		男性(%)	女性(%)
	実数(人)	割合(%)		
1人	6	1.2	1.9	0.7
2人	267	54.4	57.4	51.6
3人	167	34.0	30.6	37.0
4人	14	2.9	3.7	2.2
5人以上	3	0.6	0.9	0.4
わからない	28	5.7	8.3	3.7
無回答	6	1.2	0.4	0.8

子どもを持つことを希望する人に対し、具体的に何人子どもを持ちたいかをたずねたところ、「2人」が54.4%で最も高く、次いで「3人」が34.0%となっている。

男女別で見ると、「子ども2人」は男性57.4%に対し女性51.6%、「子ども3人」は男性30.6%に対し女性37.0%と、女性の方がより多くの子どもを望む傾向がある。

なお、平成20年度の調査では、「子ども2人」は53.1%、「子ども3人」は29.5%となっている。

問 17 一般的に、男女とも生殖機能は年齢とともに衰えると言われていますが、衰えはじめる年齢はどのくらいだと思いますか。(男女それぞれについて、〇は1つ)

	男性の生殖年齢の衰え		女性の生殖年齢の衰え	
	実数(人)	割合(%)	実数(人)	割合(%)
25歳前後	11	2.0	20	3.6
30歳前後	48	8.7	68	12.4
35歳前後	86	15.7	163	29.7
40歳前後	115	20.9	138	25.1
45歳前後	141	25.7	58	10.6
わからない	128	23.3	80	14.6
無回答	20	3.6	22	4.0
合計	549		549	

加齢による生殖機能の衰えについて、男性の場合は「45歳前後」と考える人が25.7%で最も多い。また、女性の場合は、「35歳前後」で衰えはじめると思う人が多く、女性の生殖機能は男性より早く衰え始めると考える人が多いことが伺える。

性別で見ると、「男性の生殖機能の衰える年齢」についての女性の回答は「わからない」が28.7%と最も高かった。また、「女性の生殖機能の衰える年齢」について、「35歳前後」と答えた割合は男性24.6%に対し女性34.0%、「40歳前後」と答えた割合は男性28.7%に対し女性22.4%という結果であり、同性の加齢による生殖機能の衰えについてはある程度の知識はあるが、異性に対してはあまり理解が進んでいない様子が伺える。

問9 問.6で「3. あまり結婚したいと思わない」「4. 結婚したいとは全く思わない」と答えた方におたずねします。そのように考える理由は何ですか。(〇はいくつでも)

	実数(人)	割合(%)
自由に自分のお金や時間を使いたいから	33	68.8
結婚という形にこだわらなくて良いと思うから	20	41.7
子どもを持ちたいと思わないから	14	29.2
親戚付き合いが面倒だから	13	27.1
恋愛にも結婚にも興味はないから	9	18.8
仕事に影響が出そうだから	7	14.6
離婚する夫婦が多いから	4	8.3
その他	8	16.7
結婚したいと思わないと回答した人の総数	48	

結婚したいと思わない理由について尋ねたところ、「自由に自分のお金や時間を使いたい」(68.8%)が最も多く、恋愛したくない理由と同様の傾向が伺える。一方で、「結婚という形にこだわらなくてよい」(41.7%)を選択した人も多かった。

なお、この設問については、回答者の母数が少ないことに留意する必要がある。

問15 問.12で子どもを「3. あまり持ちたいとは思わない」「4. 持ちたいとは全く思わない」と答えた方におたずねします。そのように考える理由は何ですか。(〇はいくつでも)

	実数(人)	割合(%)
自分に子育てできるか不安だから	31	62.0
子育てにお金がかかるから	21	42.0
仕事に影響が出そうだから	12	24.0
学校や保護者との付き合いが面倒だから	8	16.0
子どもが嫌いだから	7	14.0
保育所等が利用できるかどうか不安だから	3	6.0
自分の親に頼れないから	1	2.0
離婚する夫婦が多いから	0	0.0
その他	7	14.0
子どもを持ちたいと思わないと回答した人の総数	50	

子どもを持ちたいと思わない理由について尋ねたところ、「自分に子育てできるか不安だから」が62.0%と最も多かった。

なお、この設問については、回答者の母数が少ないことに留意する必要がある。

### 【3 交際、結婚、子育てへのイメージ】

「交際」に対するイメージと「結婚」に対するイメージは、どちらもポジティブな項目を選択した割合が高いが、「結婚」に対しては負担感などのネガティブな項目を選択した割合が交際よりも高くなっている。

「子育て」に対するイメージも、全体としてはポジティブなイメージが先行しているものの、「交際」「結婚」「子育て」について、共通する5つの選択肢を比較すると、「経済的な負担感」を選択した割合が大幅に高くなっている。

#### 関連する設問の結果

問4 あなたは「恋人と交際する」ということについて、どのようなイメージを持ちますか？  
(〇はいくつでも)

問10 あなたは結婚に対して、どのようなイメージを持ちますか？(〇はいくつでも)

	恋人との交際 (%)	結婚 (%)
毎日が楽しい	48.8	31.6
愛情を感じる相手と過ごせる	55.4	52.3
社会的に認められる	4.9	19.0
精神的な安らぎが得られる	59.6	51.9
経済的なメリットがある	4.6	29.1
人間関係が広がる	39.5	33.5
価値観が広がる	45.5	40.4
人間として成長できる	45.2	55.8
日常生活の負担が増える	12.1	32.7
経済的な負担が増える	15.0	27.2
精神的な負担が増える	18.8	21.4
自分の自由な時間が取りづらい	36.6	51.2
回答者数(無回答を除く)	547人	

「交際」に対するイメージは、「精神的な安らぎが得られる」(59.6%)、「愛情を感じる相手と過ごせる」(55.4%)、「毎日が楽しい」(48.8%)などが高い割合を占めている。

「結婚」に対するイメージは、「人間として成長できる」(55.8%)、「愛情を感じる相手と過ごせる」(52.3%)、「精神的な安らぎが得られる」(51.9%)など、ポジティブな項目が高い割合を占めているものの「自分の自由な時間が取りづらい」(51.2%)の割合も高い。

また、両者で差がある項目としては、結婚に対して「社会的に認められる」「経済的なメリットがある」と答えた人の割合が多い一方、「日常生活の負担が増える」「経済的な負担が増える」「自分の自由な時間が取りづらい」といったネガティブなイメージを選択した人の割合も多くなっている。

「結婚」に対するネガティブなイメージを選択した人を男女別で見ると、「日常生活の負担が増える」「自分の自由な時間が取りづらい」「精神的な負担が増える」を選択した割合は、いずれも女性が男性より10ポイント以上高い結果となっている。

問 16 あなたは子育てに対して、どのようなイメージを持ちますか？（〇はいくつでも）

	実数(人)	割合(%)
子どもの成長を楽しめる	489	89.4
自分も成長できる	378	69.1
親も含め家族のきずなが深まる	276	50.5
人間として成長できる	275	50.3
生活にやりがいを感じる	264	48.3
経済的な負担が増える	264	48.3
自分の自由な時間が取りづらい	239	43.7
仕事と家庭の両立が難しい	209	38.2
精神的な安らぎが得られる	189	34.6
精神的な負担が増える	130	23.8
回答者数(無回答を除く)	547	

（参考：交際・結婚との共通項目）

	恋人との交際 (%)	結婚 (%)	子育て (%)
精神的な安らぎが得られる	59.6	51.9	34.6
人間として成長できる	45.2	55.8	50.3
経済的な負担が増える	15.0	27.2	48.3
精神的な負担が増える	18.8	21.4	23.8
自分の自由な時間が取りづらい	36.6	51.2	43.7
回答者数(無回答を除く)	547 人		

子育てに対するイメージとしては、「子どもの成長を楽しめる」が 89.4% で非常に高い割合を占めている。以下、「自分も成長できる」(69.1%)、「親も含め家族のきずなが深まる」(50.5%)、「人間として成長できる」(50.3%) などの順になっている。

「経済的な負担が増える」を選択した割合について、「結婚」に対するイメージと「子育て」に対するイメージを両方で比較したところ、「結婚」での割合 27.2% に対し、「子育て」での割合は 48.3% と、20 ポイント以上高くなっていることがわかる。

男女別の状況については、P16 にて取り上げる。

#### 【4 結婚に対する価値観】

共働き家庭の増加などライフスタイルの多様化により「夫は外、妻は家庭」という価値観が否定される一方、「家庭のために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然」と考える人が平成20年度の調査結果より増えている。

「生涯独身は望ましくない」「結婚したら子どもを持つべき」という価値観については、肯定的な人は約半数で、価値観の多様化が見られる。

また、「生涯独身は望ましくない」「結婚したら子どもを持つべき」「家庭のために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然」「性格の不一致ぐらいで離婚すべきではない」という価値観については女性の方が否定的である。

#### 関連する設問の結果

問5 下表の考え方について、どのように感じますか。各項目（ア～カ）について、自分の考えに最も近いものを1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

※この設問では、結婚に関する様々な考え方についてどのように感じるかをたずねているが、分析に際しては「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」を設問に対する肯定的な考え方、「そう思わない」及び「どちらかといえばそう思わない」を設問に対する否定的な考え方として表記する。また、前回調査と比較するため、各設問の「無回答」を除外して割合を算出している。

#### ア. 生涯を独身で過ごすというのは望ましい生き方ではない

	H29 (%)		H20 (%)	
そう思う	23.8	47.1	21.3	49.1
どちらかといえばそう思う	23.3		27.8	
どちらかといえばそう思わない	11.7	40.5	6.2	35.3
そう思わない	28.8		29.1	
どちらともいえない	10.8		12.9	
わからない	1.6		2.7	

この項目では、肯定的な考え方の人の割合が47.1%、否定的な考え方の人の割合が40.5%で、肯定的な考えを持つ人のほうが多い。

平成20年度の調査では、「肯定」49.1%、「否定」35.3%で、「否定的な考え方」を持つ人の割合が5ポイント増えている。

また、男女別で見ると、「肯定」は男性52.5%、女性42.6%、「否定」は男性33.6%、女性45.2%で、女性は男性に比べ「否定」が10ポイント以上高くなっている。

イ. 結婚したら、家庭のために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である

	H29 (%)		H20 (%)	
そう思う	11.5	39.7	5.6	25.2
どちらかといえばそう思う	28.2		19.6	
どちらかといえばそう思わない	16.3	52.4	22.7	66.7
そう思わない	36.1		44.0	
どちらともいえない	6.2		7.6	
わからない	1.6		0.7	

この項目では、肯定的な考え方の人の割合が 39.7%、否定的な考え方の人の割合が 52.4%で、否定的な考えを持つ人のほうが多い。

平成20年度の調査では、「肯定」25.2%、「否定」66.7%で、「肯定的な考え方」を持つ人の割合が14.5ポイントと大幅に増えている。

また、男女別で見ると、「肯定」は男性52.5%、女性28.7%、「否定」は男性41.4%、女性61.1%で、女性は男性に比べ「否定」が20ポイントほど高くなっている。

ウ. 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

	H29 (%)		H20 (%)	
そう思う	1.6	9.8	0.7	9.1
どちらかといえばそう思う	8.2		8.4	
どちらかといえばそう思わない	12.8	83.5	11.8	80.9
そう思わない	70.7		69.1	
どちらともいえない	5.5		8.7	
わからない	1.1		1.3	

この項目では、肯定的な考え方の人の割合が 9.8%、否定的な考え方の人の割合が 83.5%で、否定的な考えを持つ人が圧倒的に高い割合を占めている。

平成20年度の調査もほぼ同様の結果であり、結婚に伴う性別役割分担意識に対しては、否定的な考え方が定着してきていると考えられる。

また、男女別で見ると、「肯定」は男性13.9%、女性6.3%、「否定」は男性77.9%、女性87.5%で、女性は男性に比べ「否定」が10ポイントほど高くなっている。

## エ. 結婚したら子どもを持つべきである

	H29 (%)		H20 (%)	
そう思う	18.7	51.1	21.6	53.4
どちらかといえばそう思う	32.4		31.8	
どちらかといえばそう思わない	8.6	33.9	4.9	33.1
そう思わない	25.3		28.2	
どちらともいえない	12.8		12.4	
わからない	2.2		1.1	

この項目では、肯定的な考え方の人の割合が 51.1%、否定的な考え方の人の割合が 33.9%で、肯定的な考えを持つ人のほうが多い。

平成 20 年度の調査も、肯定的な考え方が 53.4%、否定的な考え方が 33.1%で、大きな変化は見られない。

また、男女別で見ると、「肯定」は男性 59.9%、女性 41.9%、「否定」は男性 26.3%、女性 41.0%で、女性は男性に比べ「否定」が 15 ポイントほど高くなっている。

## オ. 恋愛と結婚は別である

	H29 (%)		H20 (%)	
そう思う	47.6	70.9	41.1	65.5
どちらかといえばそう思う	23.3		24.4	
どちらかといえばそう思わない	8.6	17.6	6.2	19.1
そう思わない	9.0		12.9	
どちらともいえない	4.8		7.8	
わからない	6.8		7.6	

この項目では、肯定的な考え方の人の割合が 70.9%、否定的な考え方の人の割合が 17.6%で、肯定的な考えを持つ人が圧倒的に高い割合を占めている。

平成 20 年度の調査では、肯定的な考え方が 65.5%、否定的な考え方が 19.1%で、「肯定的な考え方」を持つ人の割合が 5 ポイント増えており、恋愛と結婚は別であると考えられる傾向が若干強まっていることがわかる。

また、男女別で見ると、「肯定」は男性 67.7%、女性 72.9%、「否定」は男性 20.5%、女性 14.8%で、女性は男性に比べ「肯定」が 5 ポイントほど高くなっている。



カ. いったん結婚したら、性格の不一致ぐらいで別れるべきではない

	H29 (%)		H20 (%)	
そう思う	24.0	55.0	27.8	56.7
どちらかといえばそう思う	31.0		28.9	
どちらかといえばそう思わない	11.2	26.6	10.4	24.4
そう思わない	15.4		14.0	
どちらともいえない	11.5		13.3	
わからない	7.0		5.6	

この項目では、肯定的な考え方の人の割合が 55.0%、否定的な考え方の人の割合が 26.6%で、肯定的な考えを持つ人が否定的な考えを持つ人を大きく上回っている。

平成 20 年度の調査も、肯定的な考え方が 56.7%、否定的な考え方が 24.4%で、大きな変化は見られない。

また、男女別で見ると、「肯定」は男性 62.7%、女性 48.2%、「否定」は男性 22.9%、女性 29.4%で、男性は女性に比べ「肯定」が 15 ポイントほど高くなっている。さらに、「どちらともいえない」「わからない」と答えた女性も 22.1%と比較的高い割合を占めている。

【5 働き方、家事育児に関する男女の意識差】

共働き家庭の増加に伴い、家事や育児を夫婦で分担する意識はだいぶ浸透してきているように見えるが、「自分の自由な時間がとりづらい」「仕事と家庭の両立が難しい」などの項目を選ぶ女性は男性より多い。

また、自身が望む働き方について、「結婚・出産を機に退職し、子育て後に再就職する」と答えた人は女性が圧倒的に多く、結婚相手に求めるものとして「経済的な不安がない」を選んだ人も女性が男性より多い状況にある。

関連する設問の結果

問 11 あなたは、夫婦の間での家事や育児の負担について次のうちどれが望ましいと思いますか。(〇は1つ)

	夫のほうが多く負担	どちらかというとも夫のほうが多く負担	どちらも同じく負担	どちらかというとも妻のほうが多く負担	妻のほうが多く負担	わからない	無回答
実数(人)	4	29	339	121	14	37	3
全体(%)	0.7	5.3	62.0	22.1	2.6	6.8	0.5
男性(%)	1.6	9.8	63.1	16.4	2.0	6.6	0.4
女性(%)	0.0	1.7	61.1	26.7	3.0	6.9	0.7

夫婦の家事や育児の分担については、「どちらも同じくらい負担する」と回答した人の割合が 62.0%で最も高く、次いで「どちらかというとも妻が多く負担」が 22.1%となっている。男女別でみると、「どちらかというとも夫」と回答した割合は男性が、「どちらかというとも妻」と回答した割合は女性がそれぞれ高かった。

(再掲) 問 16 あなたは子育てに対して、どのようなイメージを持ちますか？(〇はいくつでも)

	子どもの成長を楽しめる	自分も成長できる	親も含め家族のきずなが深まる	人間として成長できる	生活にやりがいを感じる	経済的な負担が増える	自分の自由な時間が取りづらい	仕事と家庭の両立が難しい	精神的な安らぎが得られる	精神的な負担が増える
実数(人)	489	378	276	275	264	264	239	209	189	130
全体(%)	89.1	68.9	50.3	50.1	48.1	48.1	43.5	38.1	34.4	23.7
男性(%)	89.3	64.8	50.4	49.6	47.5	43.4	28.7	25.4	37.7	18.4
女性(%)	88.8	72.3	50.2	50.5	48.2	52.1	55.4	48.2	32.0	27.7

子育てに対するイメージを性別に見ると、ネガティブなイメージの項目はいずれも女性が男性より多く選択している。特に「自分の自由な時間がとりづらい」「仕事と家庭の両立が難しい」については、女性の方が 20 ポイント近くも多く、男性より女性の方が、「子育てでは負担が増える」というイメージを持っていることがわかる。

問 19 あなた自身のこれからの生き方・働き方として、次のうちどれが一番望ましいと思いますか。(〇は1つ)

	結婚せず、 仕事を続ける	結婚し、子どもは持たず、仕事を続ける	結婚し、子どもを持ち、仕事を続ける	結婚・出産を機に退職し、子育て後に仕事を持つ	結婚・出産を機に退職し、その後は仕事を持たない	わからない	その他	無回答
実数(人)	31	15	321	123	12	40	4	3
全体(%)	5.6	2.7	58.5	22.4	2.2	7.3	0.7	0.5
男性(%)	11.0	2.0	76.0	2.0	0.0	7.5	1.6	0.0
女性(%)	4.3	3.3	41.9	38.6	4.0	6.9	0.0	1.0

自分自身のこれからの生き方・働き方として望ましいと思うものについては、「結婚し、子どもを持ち、仕事を続ける」と回答した人が 58.5%で最も多く、次いで「結婚・出産を機に退職・子育て後に仕事を持つ」と回答した人が 22.4%となっている。

男女別で見ると、男女とも「結婚し、子どもを持ち、仕事を続ける」との回答が最も多いが、男性が 76.0%であるのに対し、女性は 41.9%に留まっている。また、「結婚・出産等を機に退職・子育て後に再就職」を選んだ人は、男性 2%に対し、女性 38.6%と女性が圧倒的に多い結果となっている。

問 8 問 6 で「1. ぜひ結婚したいと思う」「2. できれば結婚したいと思う」と答えた方におたずねします。あなたは、結婚相手に何を望みますか。(〇は3つまで)

	価値観が近い	恋愛感情がある	自分の仕事を理解してくれる	親を大事にしてくれる	家事が分担できる	経済的な不安がない	金銭感覚が近い	ケンカをしない	その他
実数(人)	279	253	190	154	152	150	134	46	34
全体(%)	56.8	51.5	38.7	31.4	31.0	30.5	27.3	9.4	6.9
男性(%)	51.9	51.4	39.4	25.9	25.5	17.6	19.9	11.1	9.3
女性(%)	60.4	51.6	38.5	35.5	35.5	40.7	33.3	8.1	5.1

※ 「結婚したい」と回答した人の総数 491人

結婚を希望する人が結婚相手に何を望むかをたずねたところ、「価値観が近い」(56.8%)や「恋愛感情がある」(51.5%)の項目が、特に高い割合を占めている。

男女別で見ると、「家事が分担できる」「経済的な不安がない」「金銭感覚が近い」の各項目において、男性より女性の回答割合が 10 ポイント以上高く、特に「経済的な不安がない」については 20 ポイント以上の差が生じている。

また、「親を大事にしてくれる」を選んだ割合も、女性が男性より 10 ポイントほど高い。

【6 これからの生き方・暮らし方】

現在の学校を卒業した後に暮らす場所を選ぶ上で重要視する要素としては「自分が希望する仕事ができる」ことが最も多い。一方、具体的に人生設計をイメージしている人の割合はそれほど多くはなかった。

また、県内出身者でも県外で暮らすことを希望している人が少なくないことがわかった。

関連する設問の結果

問 18 あなたは現在在籍している学校を卒業したあとの人生設計（暮らし方や生き方）について、どの程度考えていますか。（○は1つ）

	実数(人)	割合(%)	
具体的に考えている	66	12.0	73.4
漠然とだが考えている	337	61.4	
あまり考えていない	113	20.6	26.1
まったく考えていない	30	5.5	
無回答	3	0.5	
合計	549		

今後の人生設計に関しては「漠然とだが考えている」と回答した人が 61.4%で特に高い割合を占め、「具体的に考えている」と回答した人は 12.0%にとどまっている。

「具体的に考えている」と回答した人を男女別で見たところ、男性 15.2%、女性 9.6%と男性の方が5ポイントほど高かった。

問 20 あなたは現在在籍している学校を卒業したあと、どこで暮らす予定ですか。（○は1つ）

	実数(人)	割合(%)
宮崎県内で暮らす予定	160	29.1
県外(地元)で暮らす予定	110	20.0
県外(地元以外)で暮らす予定	124	22.6
まだ決めていない	131	23.9
わからない	20	3.6
無回答	4	0.7
合計	549	

卒業後にどこで暮らす予定かをたずねたところ、「宮崎県内で暮らす予定」(29.1%)との回答が最も高い割合を占めている。また、「まだ決めていない」(23.9%)、「県外(地元以外)で暮らす予定」(22.6%)との回答も少なくない。

	出身地	将来暮らしたい場所		
		県内(%)	県外(%)	未定・わからない(%)
全体	宮崎県内	50.2	24.3	25.5
	県外	2.9	66.7	30.4
男性	宮崎県内	46.6	28.8	24.6
	県外	3.2	66.7	30.2
女性	宮崎県内	52.5	21.3	26.2
	県外	2.6	66.7	30.7

この回答を出身地別で見ると、県内出身者は、「県内で暮らす予定」という回答が 50.2% で最も高い割合を占めているものの、「県外で暮らす予定」と回答する人も 24.3% と決して低くない。一方、県外出身者で「宮崎県内で暮らす予定」を選んだ人は 2.9% にとどまっている。「未定・わからない」と答えた人も、県内出身者・県外出身者の両方で相当数を占めている。

出身地別・男女別で見ると、県内出身者で将来も県内で暮らしたいという人は男性 46.6%、女性 52.5% となっており、差はわずかだが女性の方が県内に留まることを希望する割合が高い。県外出身者の将来暮らしたい場所は、男女間でほとんど差は見られない。

問 21 あなたにとって、現在在籍している学校を卒業したあとで暮らす場所を決める上で重要となる要素はどれですか。(〇はいくつでも)

	希望する仕事ができる	暮らしやすい	実家から近い	生活費が安い	子育てしやすい	自然に恵まれている	友だちが多く住んでいる	恋人が近くに住んでいる	都会である	実家から遠い	その他
実数(人)	421	392	147	144	138	138	81	77	60	7	19
全体(%)	76.7	71.4	26.8	26.2	25.1	25.1	14.8	14.0	10.9	1.3	3.5
男性(%)	75.4	68.0	14.8	23.0	25.4	12.7	11.5	13.1	11.9	1.6	4.1
女性(%)	77.6	73.9	36.6	28.7	25.1	25.1	17.5	14.9	9.9	1.0	3.0

学校卒業後に暮らす場所を決める上で重要な要素については、「希望する仕事ができる」(76.7%)、「暮らしやすい」(71.4%) が特に高い割合を占めている。

男女別で見ると、「実家から近い」を選んだ割合は女性が男性を 21.8 ポイント上回っている。「希望する仕事ができる」については、男女であまり差は無かった。

【7 超高齢社会への不安、結婚・子育ての自由意見】

「2025年問題」について認識している人が7割を占め、超高齢社会の到来に伴う社会保障制度や今後の暮らしに対する不安を抱いている人が多いことが分かる。一方、全体の3割は「2025年問題」について「聞いたことはない」と回答している。

関連する設問の結果

問 22 あなたは、「2025年問題（2025年には、5人に1人が75歳以上、3人に1人が65歳以上の超高齢社会になること）」について聞いたことがありますか。（○は1つ）

	実数(人)	割合(%)
聞いたことがある	389	70.9
聞いたことはない	159	29.0
無回答	1	0.2
合計	549	

2025年問題については、「聞いたことがある」と回答した人が70.9%で、「聞いたことはない」という人が29.0%であった。また、男女差はほとんど見られなかった。

問 23 2025年の社会を想像して、あなたが不安に思うことはありますか。（○は1つ）

	実数(人)	割合(%)
不安に思うことがある	382	69.6
不安に思うことはない	151	27.5
無回答	16	2.9
合計	549	

2025年の社会に対しては、「不安に思うことがある」が69.6%、「不安に思うことはない」が27.5%で、不安を抱いている人の割合のほうが高いことがわかる。また、こちらも男女差はほとんど見られなかった。

問 24 2025 年の社会を想像し、具体的にはどのような不安がありますか。

具体的にどのようなことに対して不安を持つかについて自由記述で回答を求めたところ、「社会保障費の負担増」、「介護・医療が支えられるのか」、「働き手の不足による自分たちの負担（それに絡めて育児休暇が取れるのか）」、「高齢者向けの政策が増えて今より子育てしづらくなるのでは」などが多かった。

（主な内容）

- 年金・介護保険料などの社会保障費の負担増、自分たちの年金がもらえるか
- 働き手の不足（ブラック企業化、いくつまで働かなければならないのか）
- 自分たちのやりたい仕事が残っているのか
- 自分の親に介護が必要になった時、受入先があるか
- 自分たちに介護が必要になった時、支えてくれる人がいるのか
- 介護人材、医療人材の不足
- 高齢者による交通事故の増加
- 今よりもっと子育てしづらい世の中になっていくのではないかと
- 高齢者の声ばかりが大きくなり、若者向けの政策が通りにくくなる
- 親世代と若者世代の子育てに関するギャップ。もっと理解し手助けしてほしい。
- 超高齢社会になっても育児休暇が取れるのか
- 漠然と不安を感じる
- 過疎化による町村部の衰退
- 人口減による国力の低下
- 自分たちの子や孫の世代の生きる日本がどうなっているのか

問 25 結婚、子育て、少子化について感じることや考えなどを教えてください。

結婚、子育て、少子化について自由記述で意見を求めたところ、結婚や子育てに関する様々な意見がある中で、「出会いの場が少ない」、「育児休暇が取りやすいよう企業等が環境整備を」、「男性も育児休暇の取得を」、「子育て世代への経済的な支援を」、「もっと母親や子どもにやさしい社会に」などの意見が多かった。

（主な内容）

- 日本の将来を持続可能にしていくためには結婚し子どもをもつことが必要
- 子どもを持ちたいが、国もお金を出してほしい
- 出会いの場を増やすべき
- 結婚できるのかが不安
- 結婚してもうまくいか不安
- 育児休暇を取る男性が増えてほしい。自分のキャリアを考えると不平等
- 出産休暇や育児休暇を取れるよう穴埋めの人材確保など企業が環境を整えて

- 子育てには多額の資金が必要なのに、その割に収入が少ない
- 子育てをすることで自分の成長はあると思う
- 宮崎は一人親も多いが、母子家庭の現状などの教育を
- 少子化を危惧していると言うがその対策が目に見える形で上がっていない
- キャリアを考えると晩婚化は仕方がない
- 高齢出産のリスクをもっと知ってもらいたい
- 家族や子どものために働くのではなく会社のために働く社会になっている
- 子どもを増やすためには、もっと母親や子どもにやさしい社会になるべき
- イクメンという言葉が嫌い。女性は子育てが当たり前と思われているのに
- 人それぞれなので結婚・子育てについて自分の考えを押し付けないで
- 結婚や子どもに縁のなかった人が肩身の狭い社会であってほしくない
- 恋愛以前に人との関わり、異性との関わりが薄いので少子化になるのでは
- このアンケートで少し自分の将来について考えることができた
- 結婚しないことにとにかくいうべきでないと考えたと少子化は必然
- 若者の少子化に対する意識はまだまだ低い

## ■ まとめ

「1 交際経験と交際への意欲」では、全体の3割に現在恋人がおり、7割は交際経験がある。また、現在交際相手がいない人のうち、約7割が交際に意欲を持っている。

「2 結婚・育児への意欲」では、結婚したいが9割、子どもを持ちたいも9割。結婚したい年齢は20代後半に集中しており、子どもを持ちたい年齢も30歳前後に集中している。加齢による生殖年齢の衰えについては、あまり正確には把握されていない。

「3 交際、結婚、子育てへのイメージ」では、ポジティブなイメージが先行しているが、交際～結婚～子育てと段階が進むにつれ、「経済的な負担」などネガティブなイメージを選ぶ割合も増える。

「4 結婚に対する価値観」では、共働き家庭の増加や価値観の多様化により、これまでの固定的な価値観に否定的な人が多く見られる。

「5 働き方、家事育児に関する男女の意識差」では、共働き家庭の増加に伴い、家事や育児を夫婦で分担する意識はだいぶ浸透してきているように見えるが、「自分の自由な時間がとりづらい」「仕事と家庭の両立が難しい」などの項目を選ぶ女性は男性より多く、働き方についても、「結婚・出産を機に退職し、子育て後に再就職する」と答える女性が多い。

「6 これからの生き方・暮らし方」では、具体的に人生設計をイメージしている割合は少ないが、暮らす場所を決める要素に「希望する仕事ができる」ことを選んだ人が多く、県内出身者でも県外意向を持っている人も少なくない。



「7 超高齢社会への不安、結婚・子育ての自由意見」では、7割が2025年問題を聞いたことがあると答え、不安に思うと答えている。

具体的な不安の内容としては、「社会保障費の負担増」、「介護・医療が支えられるのか」、「働き手の不足による自分たちの負担（それに絡めて育児休暇が取れるのか）」、「高齢者向けの政策が増えて今より子育てしづらくなるのでは」などがあった。

また、結婚・子育てに関する自由意見では、結婚や子育てに関する様々な意見がある中で、「出会いの場が少ない」、「育児休暇が取りやすいよう企業等が環境整備を」、「男性も育児休暇の取得を」、「子育て世代への経済的な支援を」、「もっと母親や子どもにやさしい社会になるべき」などの意見があった。